1. 調査の概要

1.1 調査目的

本調査は、江東区における緑被分布等の実態状況を把握し、今後の緑化施策における基礎的な資 料の作成を目的として実施するものである。

1.2 対象地域

江東区全域(中央防波堤埋立地を含む)



1.3 対象地域の概況

(1) 位置と面積

江東区は、東京都 23 区の東部に位置し、隅田川と荒川に囲まれたいわゆるデルタ地帯に位置している。区の北側は墨田区、西側は中央区、東側は江戸川区、南側は港区、品川区に隣接している。江東区は、江戸時代初期から始まり、明治以降も続いた埋立てにより形成された土地である。昭和 36 年から東京湾の整備が行われ、平成 28 年 10 月 1 日時点で面積は 40.16k ㎡となっている。また、江東区南側に位置する中央防波堤埋立地の面積は、6.78k ㎡となっている。(平成 28 年全国都道府県市区町村別面積調査,国土地理院より)



図 1-2 江東区の位置

(2) 人口

江東区の人口は、平成 28 年に 50 万人を突破し、現在は 513, 197 人 (平成 30 年 1 月 1 日時点) に達している。

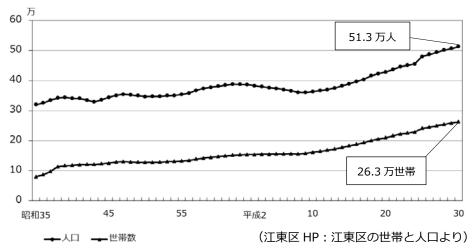


図 1-3 人口と世帯数の推移

(3) 地形·水系

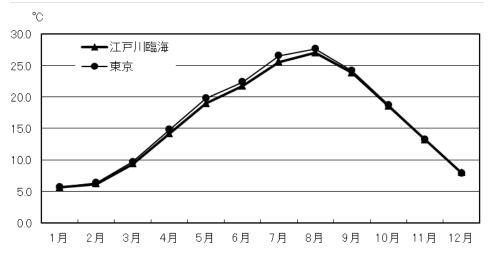
江東区は江戸時代以降、干拓や埋め立てにより区域が発展したため、地盤が軟らかく、標高が低い平坦な地形となっている。亀戸・大島地区や砂町地区などは、ゼロメートル地帯 (A. P. -1.0m程度)である。

このような形成過程から内陸部には河川、臨海部には運河が数多くあり、水害から土地を守るため、堤防の整備など河川や運河の整備が進められている。現在も残る水辺沿いでは、緑化や遊歩道の整備が行われ、掘割等の一部は埋め立てて大規模な公園として利用されている。

(4) 気象

気象庁の観測地点である江戸川臨海 (江戸川区臨海町) は、近傍の東京 (千代田区) と比べて平均気温が低く、7月で約1℃下回っていた (図 1-4)。また、風況を確認したところ、夏場は平均風速が高く、海側から吹く風の頻度が多くなっていた。

江戸川臨海に近く、東京湾に面している江東区では、夏季の南風により湿潤な空気が区内に 流入し、風の道となる河川を中心に気温が低下していると示唆される。



(気象庁資料より)

図 1-4 1981 年~2017 年の各月の平均気温

1.4 調査項目

(1) デジタル空中写真撮影

江東区全域の空中写真を撮影し、デジタルオルソ (カラーオルソ画像および近赤外画像) を 作成した。

(2) 緑被調査

(1)で作成した空中写真およびオルソ画像を用いて緑被データを作成し、区全体、地域・地区別、町丁目別などの単位で集計した。なお、集計結果は前回(平成24年度)調査結果と比較した。また、区全体における緑被分布図を作成した。

(3) 屋上緑化調査

(2) で作成した緑被データから屋上緑化(樹木および草地)を対象として、屋上緑化の箇所数と面積を集計した。なお、集計結果は前回(平成24年度)調査結果と比較した。また、区全体における屋上緑化分布図を作成した。

(4) 樹林調査

(2) で作成した緑被データから面積 100 m³以上の樹木を樹林地として抽出し、樹林地の箇所数と面積を集計した。なお、集計結果は前回(平成 24 年度)調査結果と比較した。また、区全体における樹林分布図を作成した。

(5) みどり率調査

(2) で作成した緑被データと平成 28 年度公園調書から作成した公園データを用いてみどり率を集計し、前回(平成 24 年度)調査結果と比較した。また、区全体におけるみどり率分布図を作成した。

(6) 公共施設緑被調査

(2) で作成した緑被データと江東区データブックから作成した公共施設データを用いて公共施設における緑被状況を集計し、前回(平成24年度)調査結果と比較した。